

クライミングの歴史 II

～日本の岩、そして「ぐっぼる」がここにある理由～

ぐっぼる クライミング講座 第II部

講師：由井辰美（クライミング歴30年以上）

第I部のおさらい

第I部では、世界のクライミングが**240年かけて枝分かれ**してきた話をしました。

- 1786年モンブラン = 「登るために登る」誕生
- ビッグウォール / フリー / ボルダリング / 沢登りへ分化
- パタゴニアもノースフェイスも、出発点は**岩**だった

第II部は、その物語の**日本側**。

そして最後に、私（由井）がなぜ「ぐっぼる」を作ったのかを話します。

第1章

1980年代：登山の一部門から、スポーツへ

日本では長らく、クライミングは**登山の一部門**という認識でした。

- 1980年代後半、**強固な確保支点（ボルト）**が普及 → 安全性が向上
- これにより「**スポーツクライミング**」というスタイルが定着
- 登山とは一線を画す、**独立したスポーツ**としての色が濃くなる

登山の一部（～1980s前半）

↓ 安全な支点の普及

独立したスポーツ（1980s後半～） ← ここで日本のクライミングが変わった

ポイント：日本でも世界と同じく、「**安全に挑戦できる仕組み**」が文化を一気に広げた。

日本の聖地：花崗岩のエリアたち

日本のフリークライミングを育てた、象徴的な岩場。

エリア	特徴
城ヶ崎 （静岡・海岸の岩）	黎明期フリーの中心地。**1987年「シーサイドカップ」**開催
小川山 （長野・花崗岩）	日本フリークライミングのメッカ
瑞牆山 （山梨・花崗岩）	高難度ルートの聖地。2015年「千日の瑠璃」開拓

- **1987年シーサイドカップ**：男女合わせて**約50名**。当時最大規模のコンペ
- 自然の岩場が、競技と文化の両方を育てた

固有名で岩場を語れるようになると、登りの世界が一気に広がる。

第2章

数字が語る、ジムの爆発的普及

日本のボルダリングジムの増え方は、世界的に見ても異常です。

年	国内ボルダリングジム数
2008年	100軒未満
現在	500軒以上

- わずか十数年で **5倍以上**
- 「山に行かなくても、駅前で始められる」アクセスの激変
- 日本のジムは**課題（ルート）の質**で勝負する文化 → 初心者～上級者まで対応

この波の中に、ぐっぼるも生まれた。

ジムの普及は、ただのブームではなく**入口の民主化**だった。

世界に挑んだ日本人クライマーたち

日本は今や、クライミング競技の**世界トップ国**。

- **平山ユージ** — **1998年、ワールドカップで日本人初の総合優勝**。2000年にも総合優勝。日本クライミングを世界に知らしめた先駆者
- **檜崎智亜** — **2017年 世界選手権ボルダリング 優勝**。五輪世代の象徴
- 東京2020以降、日本人選手は世界の表彰台の常連に

かつてヨセミテに憧れて海を渡った世代がいて、
今は世界が日本人選手を追いかけている。

たった数十年での逆転劇。これが日本のクライミングの底力。

第3章

同じ岩でも、登り方の「思想」が違う

第I部の日欧比較を、アメリカも加えて整理する。

	ヨーロッパ	アメリカ	日本
象徴	アルプス4,000m級	ヨセミテの一枚岩	沢・花崗岩の岩場
核の思想	征服・初登攀	自由・フロンティア	自然との一体・修行
独自種目	キャニオニング（下る）	ビッグウォール	沢登り（登る）

- 西洋 = 「人対自然」、日本 = 「自然の中に入る」
- どれも正解。 **全部を体に入れた者が、一番深く登れる**

ぐっぼるが世界中の岩を登るのは、この三者の視点を全部持つため。

第4章

ぐっぼるの正体：3業態の統合

世の中のクライミング施設の多くは「ジム単体」。
ぐっぼるは違う。**3つを1か所に統合**している。

┌ ジム ... 登る・上達する場
├ ショップ ... 道具を選び、揃える場
└ カフェ ... 仲間と語り、文化を交わす場
↓
「登る前・登る・登った後」が一つの場所で完結する

- ジム単体・ショップ単体・カフェ単体の競合は多い
- **だが3つ揃った店は希少**。これがぐっぼるの唯一性

なぜ統合したのか：歴史が答え

第I部から続く歴史を思い出してください。

- クライミングは**道具の進化**とともに育った（→ だから本気の**ショップ**が要る）
- パタゴニアもノースフェイスも、**仲間との語り**から生まれた（→ だから**カフェ**が要る）
- そして登る場所 = **ジム**

登るだけなら、ジムだけでいい。

でも「クライミング文化」を渡すなら、3つ全部が要るんです。

ぐっぼるは"施設"ではなく、"文化の渡し場"として設計されている。

ぐっぼるの強み = オーナーと岩

強み	中身
クライミング歴30年以上のオーナー	由井辰美。世界の岩を登ってきた視点で発信
世界の岩を知るスタッフ	机上ではなく、実際に登った経験
3業態統合	登る・揃える・語るが1か所で完結
本店経由でしか得られない情報	オリジナルのシューズ評・ホールド検証

- グレード（V0～V17 / 5.6～5.15）も、岩場の固有名も、技名も、**ごまかさず本物を渡す**
- 初心者に媚びない。でも、初心者を**本物の入口**に立たせる

まとめ：あなたは、日本のクライミング史の「今」にいる

時代	日本で起きたこと
～1980s前半	クライミング＝登山の一部門
1980s後半	安全な支点普及で独立スポーツ化
1987	シーサイドカップ（約50名）
1998	平山ユージ WC日本人初優勝
2008→現在	ジム 100軒未満 → 500軒以上
2017	檜崎智亜 世界選手権優勝
今	あなたがぐっぼるで登っている

ようこそ、文化の渡し場へ

あなたの1手が、日本のクライミング史の続きになる

第I部・第II部、ご視聴ありがとうございました

ぐっぼる / goodbouldering.com